

令和5年度学校自己評価システムシート (県立春日部工業高等学校)

目指す学校像	あらゆる教育活動をととして「技を磨き心を育む」教育を実践し、SDGsの達成に貢献できるタフで人間性豊かなスペシャリストを育成する。
--------	---

重点目標	1 確実な学力の定着を図るとともに、学習全般をととして技術の力で持続可能な社会を創造できる能力を育成し、進路実現を行う。 2 生徒指導、学校行事、部活動をとおして、タフな心と他者と協働する力を身に付けるとともに、公正さや人権感覚を醸成する。 3 地域の教育資源を活用した実践的教育を推進し、生徒の社会参画意識を醸成する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価 (2 月 5 日 現在)		
年 度 目 標					年度評価 (2 月 5 日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 進路実現に向け、課題研究や資格取得に対し、積極的に取り組む生徒も多い。 【課題】 観点別評価を年次進行で確実に実施するとともに、「授業が楽しく理解できた」という生徒を増やすために、ICT教育を含めた授業改善や家庭学習の習慣化に取り組む必要がある。	「授業が楽しく理解できた」という生徒が増えるように、観点別評価を通し授業内容や授業方法を改善する。	①ICTを活用した授業の振り返りや課題の提示・提出に取り組む。 ②単元や学期ごとに観点別評価を検証し、授業改善につなげる。	①各教科担当でタブレットを活用した授業を積極的に実践したか。 ②授業改善により「主体的に学習に取り組む態度」等に変容が見られたか。	①各教科のアンケート結果から、教科の特性や授業展開に応じた授業実践が見受けられた。 ②「授業が理解できた」生徒は85%で、昨年度よりも5ポイント上昇した。	B	ICTの活用は、学校全体で更に積極的な活用を実践したい。 次年度は、観点別評価の完成年度となる。各教科で評価の検証や研修会を通し、授業改善につなげる。
		生徒一人ひとりの学力を伸ばさせ、生徒の希望に応じた進路実現を達成する。	①資格取得や課題研究を通し、生徒の主体性を養う。 ②目的意識を高く持たせ、就職指導や総合型選抜入試等に挑戦する生徒の支援も充実させる。	①「資格取得指導は十分に行われている」という生徒・保護者の割合95% ②進路決定率100%	①アンケート結果で生徒の回答は94%で、保護者の回答は88%であった。 ②1月末現在で、進学先の結果待ちの生徒が数名いるが、ほとんどの生徒が、進路決定した。	A	進路指導部主催で、夏季休業中に複数校の大学見学会を実施した。 生徒へ目的意識を高く持たせるための施策が必要である。次年度へ向けて、学習アプリの導入を検討している。
2	【現状】 生徒会行事や部活動が盛んで、来校者への挨拶や清掃活動など概ね良好である。 【課題】 多様化する生徒に対し、個々の生徒理解を深め、組織的な生徒指導を行う必要がある。また、SDGs達成のために教育活動へどのように取り込むかが課題である。	多様化する生徒に対し生徒理解に努め、SDGs達成に向けた教育内容を確立する。	①SCや巡回支援員等との連携も含めて、情報を共有し、生徒を十分に理解した上で組織的な生徒指導に取り組む。 ②「学際的な学び推進事業」を活用し、探究活動や教科横断的な学びを充実させる。	①SC等との相談件数 ②教科横断的な学習活動の実施回数	①SC等と連携した生徒相談が、昨年度より減少した。学年を中心に迅速な対応ができた。 ②課題研究における学科横断の取り組みを実践できた。	B	「学際的な学び推進事業」は、企業連携など初年度の取り組みとしては、積極的な活動ができた。 探究活動と教科横断的な学びについては、更なる研究と実践が必要である。そのためには、教職員が失敗を恐れずにチャレンジする姿勢が大切である。
3	【現状】 保護者への情報発信と地域連携は充実している。 【課題】 成人年齢引き下げに伴い地域の教育資源を活用し、社会参画意識を醸成する必要がある。また、効果的な本校の魅力発信が課題である。	効果的な魅力発信と地域や企業と連携し、生徒の社会参画意識を向上させる。	①60周年記念事業の学校行事を通し、本校の魅力を発信する。 ②生徒が輝ける地域連携を推進する。	①60周年記念誌の作成及び記念行事の開催 ②地域交流や外部人材活用の実施回数	①記念誌は、3月末の完成を目指している。文化祭や三科合同課題研究発表会など、盛況であった。 ②工業三科で15回以上、地域交流や外部人材の活用ができた。	A	次の70周年に向けて教育活動を推進する必要がある。本校の存在意義を再認識し、地域に必要とされる学校を目指す。 「学際的な学び推進事業」を活用し、探究活動や教科横断的な学びの情報発信を行う。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和6年2月6日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業が理解できた」生徒は昨年度よりも5ポイント上昇したが、生徒の資質等により上下することもある。年度ごとに授業改善は必要である。 ・職員研修を計画的に実施するなどICT活用の機運を高めようとしていると感じた。動画活用など長けている教員が先導し、わかりやすい授業資料を作成している様子が見える。 ・資格取得の指導が計画的に行われ、成果もあがっている。 ・進路指導について、満足度や就職後の離職等の調査が必要ではないか。 ・学習アプリの導入は、一考の価値があると思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・速やかな情報共有による組織的な対応が行われている。生徒、保護者に寄り添う指導をお願いしたい。 ・学科横断的な取組には、教員間の話し合いや情報交換が必要と思われる。組織として研修時間の確保は絶対条件である。 ・学科の枠を超えて履修できるカリキュラムを作れるのが理想である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・企業連携について、技術的なこと以外に、地域的なコミュニティを築ければいいと思う。 ・HPを通して様々な情報が発信されている。校長ブログで紹介されていた市議会議員との意見交換会も興味深かった。 ・TV活用など成果があり、生徒は充実感を持てたと思う。時間はかかるが生徒募集につながると思う。 	